

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 11 日現在

機関番号：32510

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02639

研究課題名(和文) モダリティと視点に関わる言語現象と統語構造の多層性

研究課題名(英文) linguistic phenomena and hierarchical structure of modality and viewpoint

研究代表者

遠藤 喜雄 (Endo, Yoshio)

神田外語大学・言語科学研究科・教授

研究者番号：50203675

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、カートグラフィーの枠組みで、モダリティの性質を探った。特に、副詞節に生じるモダリティー表現を考察した。この点を見るために、副詞節の内部が階層構造を持ち、異なるタイプの副詞節が主節と呼応の関係を持つ点を利用した。新たな発見としては、視点に関わるモダリティー表現がどのタイプの副詞節のどの階層に生じるかを解明できた。そして、日本語学で副詞節の内部が階層構造を持ち異なるタイプの副詞節が主節と呼応の関係を持つ点がある程度理論化し、国際誌に発表することができた。さらには、先行研究においては取り扱われることのなかった話者間の文法性のバリエーションがFinという機能範疇に由来することも解明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
談話や意味を階層構造で詳細に描き出すカートグラフィーの有効性を検証することにより、特にモダリティー研究の基盤となる知見を社会に提示し、言語に関わるこれから音研究者に貢献をした。

研究成果の概要(英文)：This research explored the nature of modality in the framework of the cartography of syntactic structures. We explored the hierarchically organized sequence of functional heads to house various types of modality expressions in adverbial clauses. The result has been published in *Glossa*. In addition, we also investigated the nature of inter-speaker variation of modality expression, which has been published in *Linguistic Variation*.

研究分野：カートグラフィー

キーワード：モダリティ 副詞節 カートグラフィー

1. 研究開始当初の背景

Searle や Grice に代表される語用論の研究は、「文を話し手 (speaker) が聞き手に (hearer) どのような事柄について (topic) でどのような心的な態度(ムード)で、どのような視点から (point of view) 述べることで何を意図するか (speech-act)」に主な関心があった。そのため、語用の基盤となる現実の会話の側面を取り扱えたが、語用に関わる要素が文の統語構造の中でどのように結びついているのかという点には、あまり注意が向けられることがなかった。

2. 研究の目的

最近のカートグラフィー研究により、こういった語用や談話の情報が、以前考えられてきたよりも 統語構造に反映される点が多いことが明らかとなった。例えば、視点の研究 (Nishigauchi 2014) や終 助詞の統語構造 (Haegeman and Hills 2015, Endo 2012b)) の研究では、話し手や聞き手の情報が関わる 談話や語用に関わる機能範疇が、CP と IP の文構造の中でどこに位置するかがある程度解明された。

Cinque (1999) は、こういった要素の中でも、モダリティ表現が文中において階層的に配列されていることを明らかにしたのだが、Speech act、Evidentiality、Point-of-View、Deixis/Empathy といった表現は、日本語に優れた研究があるにも関わらず、あまり取り上げられることはなかった。例えば、仁田 (1987) による真性モーダルと擬似モーダルの重要な研究も、CP と IP の違いを反映しており最先端の理論研究にインパクトを与える特質が議論されているにもかかわらず、海外では知られていない。そこで、本研究では、日本語と他言語との対照研究の視点から、これらモダリティや視点に関わる表現を CP 領域 と IP 領域 とに分けて最先端の言語理論研究に目を配りながら研究し、日本語から貢献できる研究成果 を海外に発信することを研究目的とした。

3. 研究の方法

Evidentiality、Point-of-View、Deixis/Empathy については、研究分担者が中心になって研究を行い、研究代表者と意見交換をしながら共同作業をした。具体的には、国際会議で、共同のシンポジウムを開催し、研究成果を発表した。そこでは、研究分担者がすでに国際誌に発表した研究成果 (Nishigauchi (2014) 等) を出発点として、研究集会を開催して成果を洗練した。

(2) 副詞節については研究代表者が中心となって共同研究を行った。そこでは、Evidentiality に関わる表現が CP 領域と IP の領域の両方に生じる特性を活かした。実は、この IP と CP のモダリティ要素の違いは、日本語学の仁田 (1987) の真性モーダル (= CP 領域) と擬似モーダル (= IP 領域) にも対応しており、Evidentiality の視点から日本語独自のモダリティ体系の性質を海外に発信し、その研究がモダリティ研究に大きな インパクトを与えることを示した。そこでは、Evidentiality に関わ

る現在未解決の問題も取り扱った。こういった問題を副詞節とモダリティの性質に目を配りながら解決することを目指した。

4. 研究成果

Evidentiality、Point-of-View、Deixis/Empathy については、研究分担者が国際会議で発表を行った。副詞節については研究代表者が国際会議で発表したものが国際誌 (Glossa, Linguistic Variation など) や国際出版局から出版された。具体的には以下の通り。

- 1) Information Structure, Null Case Particle and Sentence Final Discourse Particle

Yoshio Endo

Information-Structural Perspectives on Discourse Particles, John Benjamins, Amsterdam/Philadelphia 2020年3月 .

- 2) Exploring Right/Left Peripheries: Expressive Meanings in Questions

Yoshio Endo

Arbeitspapiere des Fachbereichs Linguistik /Working Papers of the Department of Linguistics (University of Konstanz), number #130 2019年12月

- 3) 副詞節に見る従属度の新たなタイポロジー

遠藤喜雄・前田雅子

Selected Papers, 関西言語学会. 2019年6月

- 4) Adverbial Clauses and Adverbial Concord

Yoshio endo, Liliane Haegeman

Glossa [Special Collection on the Syntax of Adverbial Clauses], 4(1): 48, 1-32 2019年5月

- 5) Variation in wh-expressions asking for a reason

Yoshio Endo

Linguistic Variation 18:2, 299 - 314 2018 年 12 月

- 6) Inter-Speaker Variation and Subject Drop in How Come Questions in English

Yoshio Endo

The Syntax-Morphology Interface in Generative Grammar: Proceedings of the 19th Seoul International Conference on Generative Grammar, Seoul National university Press, 2017 年 8 月

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 6件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yoshio endo, Liliane Haegeman	4. 巻 4(1): 48
2. 論文標題 Adverbial Clauses and Adverbial Concord	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Glossa [Special Collection on the Syntax of Adverbial Clauses]	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) https://doi.org/10.5334/gjgl.589	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Yoshio Endo	4. 巻 18
2. 論文標題 Variation in wh-expressions asking for a reason	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Linguistic Variation	6. 最初と最後の頁 299-314
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) org/10.1075/lv.00024.end	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 遠藤喜雄・前田雅子	4. 巻 1
2. 論文標題 副詞節に見る従属度の新たなタイポロジー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 KLS Selected Papers	6. 最初と最後の頁 237-247
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yoshio Endo	4. 巻 1
2. 論文標題 Exploring right/left peripheries: Expressive meanings in questions	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Arbeitspapiere des Fachbereichs Linguistik/Working Papers of the Department of Linguistics(University of Konstanz), number #130, ed. by Josef Bayer and Yvonne Viese	6. 最初と最後の頁 69-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 西垣内 泰介	4. 巻 19
2. 論文標題 「地図をたよりに」の構文と派生	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本語文法	6. 最初と最後の頁 37-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Taisuke Nishigauchi	4. 巻 未完
2. 論文標題 The Syntax behind the Concealed Question	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Proceedings of Olinco 2018 (The Olomouc Linguistics Colloquium, Palacky University, Czech)	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yoshio Endo	4. 巻 19
2. 論文標題 Inter-Speaker Variation and Subject Drop in How Come Questions in English	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Proceedings of 19th Seoul International Conference on Generative Grammar	6. 最初と最後の頁 99-114
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Taisuke Nishogauchi	4. 巻 21
2. 論文標題 「視点シフト」といわゆる「非飽和名詞」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 トークス	6. 最初と最後の頁 151-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 13件）

1. 発表者名 遠藤喜雄・前田雅子
2. 発表標題 副詞節に見る従属度の新たなタイポロジー
3. 学会等名 関西言語学会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 Exploring the right/left periphery in Japanese by RM: Expressive meanings in questions
3. 学会等名 Seoul National University International Conference on Linguistics（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 The Cartography of Interrogative Syntactic Structures: Expressive and Non-expressive SFPs
3. 学会等名 International Forum on Frontiers in Linguistics（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 Information Structure, Null Case Particle and Discourse Modal Particle
3. 学会等名 Societas Linguistica Europaea（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Taisuke Nishigauchi
2. 発表標題 Reason and Cause in perspective
3. 学会等名 Workshop "Logophoricity and perspectivization in Wackershofen" Stuttgart, Germany (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 Inter-speaker variation in how come questions in English
3. 学会等名 19th Seoul International Conference on Generative Grammar (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 A cartographic approach to the variation in how come questions
3. 学会等名 International Workshop on Syntactic Cartography (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 A Cartographic Approach to the Variation in How Com
3. 学会等名 Societas Linguistica Europaea (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 遠藤 喜雄
2. 発表標題 副詞節のinternal syntax とexternal syntax
3. 学会等名 日本英語学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西垣内 泰介
2. 発表標題 意味と統語構造のインターフェイス
3. 学会等名 日本英語学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西垣内 泰介
2. 発表標題 The Logophoric Hierarchy as Seen from the Point-of-View Projections
3. 学会等名 日本言語学会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yoshio Endo and Liliane Haegeman
2. 発表標題 Adverbial clauses and adverbial concord
3. 学会等名 9th Days of Swiss Linguistics 2016（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshio Endo
2. 発表標題 Diversity of How Come Questions
3. 学会等名 9th Days of Swiss Linguistics 2016 (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Yoshio Endo and Liliane Haegeman
2. 発表標題 Adverbial clauses and adverbial concord
3. 学会等名 The Internal and External Syntax of Adverbial Clauses. Theoretical Implications and Consequences (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Yoshio Endo	4. 発行年 2020年
2. 出版社 John Benjamins	5. 総ページ数 304
3. 書名 Information-Structural Perspectives on Discourse Particles	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	西垣内 泰介 (Nishigauchi Taisuke) (40164545)	神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授 (34513)	